

				健康の定義	健康観	ヘルスプロモーション	ウェルネス	QOL	健康に関する指標	人口動態	健康状態と受療状況	生活行動・習慣	労働と健康	各期の健康課題	家族のサイクル	
I 健康の保持・増進、疾病の予防	27 生涯各期における健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を理解する	生活者の生涯各期における特徴と健康課題	生活習慣病	ストレスと病気	疾病の原因	生体の回復	予防接種									
		健康生活を支える予防活動	予防の概念	健康の保持増進	疾病予防	社会との関係性の中での健康づくり	セルフケア	介護予防								
		予防活動における看護の役割	健康教育	健康相談												
		28 環境の変化が健康に及ぼす影響と予防策について理解する	環境の変化による健康生活への影響と予防策	環境	ストレスとコーピング	ストレスマネジメント	防衛機能の低下	免疫反応	有害物質	労働災害	安全管理	療養環境が及ぼす影響				
	29 健康増進と健康教育のために必要な資源を理解する	健康増進と健康教育のために必要な資源	公衆衛生システム	根拠が証明された健康支援プログラム	健康づくりに有用な根拠ある情報	健康づくりを支える各種機関（保健所など）	健康づくりを支える人的資源（保健師・看護師など）	健康づくりを支えるチームアプローチ（保健・医療・福祉）	健康づくりを支えるセルフヘルプグループ	健康づくりを支える地域組織	健康診査					
II 群 健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力	30 対象者及び家族に合わせて必要な保健指導を実施する	対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導	保健指導	家族アセスメントモデル	カウセリングマインド	動機づけ	コーチング	説明力	コミュニケーション技術	学習支援						
	31 妊娠、出産、育児に関する援助の方法を理解する	妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助	妊娠、出産、育児	受胎調節法	妊娠期の生活	妊娠・分娩・産褥の経過と看護	安全・安楽な分娩への看護	新生児看護	妊婦の保健指導	育児技術	母乳保育	ワーク・ライフ・バランス	児童虐待予防			
	J 急激な健康状態の変化にある対象者への看護（続き）	32 急激な変化状態（周手術期や急激な病状の変化、救命処置を必要としている等）にある人の病態と治療について理解する	心身に急激な変化をもたらす原因	妊娠・分娩・産褥の異常	胎児・新生児の異常	アナフィラキシーショック	麻酔	手術	感染症	外傷	事故（医療事故を含む）	中毒（薬物中毒、食中毒）				
心身に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応			災害	呼吸・循環障害	代謝障害	脳機能障害	出血	消化管出血	慢性疾患の急性増悪	誤嚥・窒息						
心身に急激な変化をもたらされた対象者に対して必要な治療・看護		生体の防衛機制	麻酔の身体に及ぼす作用	解剖生理	代理意思決定	ショック状態（外傷性ショックを含む）	多臓器不全	DIC	脳死状態	挫減症候群	侵襲がもたらす心理面への影響	機能不全				
		SIRS（全身炎症症候群）	生体侵襲理論	予備力/免疫力の低下												
チームアプローチ		薬物療法	隔離・拘束・行動制限・抑制	呼吸・循環管理	合併症・二次障害予防のための援助	安全の確保	酸素療法	手術療法	輸血	心肺蘇生						

Ⅲ群 健康の保持 増進、疾病 の予防、健 康の回復に かかわる実 践能力	L 終末期に ある対象へ の看護 (続き)	49 看取りをす る家族をチ ームで支援 することの 重要性を 理解する	看取りをする家族	看取り	家族シス テムと適 応														
			看取りのチ ーム	ケアチ ーム	ケアチ ームの 構成員														
			遺族へのグ リーフケア	グリー フケア	喪失体 験	悲嘆の プロセ ス													
Ⅳ群 ケア 環境とチ ーム体制 を理解し 活用す る能力	M 看護専 門職の 役割	50 看護職 の役割と 機能を理 解する	看護職の 役割と機 能	看護の 歴史 的変遷	看護の 基本 となる 定義 と概念	看護の 対象 者	看護の 基本 法・保 助看 法・看 護師 の人 材確 保の 促進 に関 する 法律 他	看護業 務を 規定 する 法 律に 関連 する 法規	看護業 務基 準(責 務・内 容・方 法)	看護業 務を 規定 する 倫理	看護の 行動 指針 (看護 業務 基準)	看護の 役割	看護職 の キャ リア マ ネ ジ メ ン ト						
			看護活動 の場	損害 賠償 保 険	トップ マネ ジ メ ン ト 機 能 (組 織の トップ とし て、 プライ マリ ーと して 個々 の患 者の 看護 に責 任を 持つ 機能 とし て)														
			看護専門 職	看護 専門 職	専門 職の 特 質・ 基 準	スペ シャ リス トと ジェ ネ ラ リ ス ト	コン ピ テ ン シー	専門 職能 集 団											
			チ ーム 医 療 に お け る 看 護 職 の 役 割	チ ーム 医 療	連携 ・協 働	コー ディ ネ イ ト	リー ダー シ ップ	マネ ジ メ ン ト											
	51 看護 師とし ての自 らの役 割と機 能を理 解する	看護 師とし ての自 らの役 割と機 能	看護 職の セル フマ ネ ジ メ ン ト	看護 職の キャ リア マ ネ ジ メ ン ト	組織 にお ける マネ ジ メ ン ト														
	N 看護 チ ーム にお け る 委 譲 と 責 務	52 看護 師は法 的範囲 に従っ て仕事 を他者 (看護 補助 者等) に委任 するこ とを理 解する	看護師 業務の 法的範 囲	保助 看 法・ 看護 関連 法規	法的 義務	業務 範囲	委任 可能 な 仕事 の判 断 基 準	看護 の専 門 性	看護 の独 自 性	業務 分担	関連 する 職 種と 機能								
チ ーム 内 に お け る 業 務 の 委 任			チ ーム ナ ー シ ン グ	ケア チ ーム	スキ ルミ ツ クス	協働													

IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	P 保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働	60 保健・医療・福祉チームにおける看護及び他職種の機能・役割を理解する	保健・医療・福祉の概念	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉システム	保健・医療・福祉の場に関わる人々													
			活動が展開される場の構成員	病院とその構成員	診療所とその構成員	助産所とその構成員	介護老人保健施設とその構成員	訪問看護ステーションとその構成員	社会福祉施設とその構成員	介護老人関連施設とその構成員	居住サービス事業所とその構成員								
			チーム医療における看護の機能と役割	チーム医療	看護職の機能・役割	チーム医療における他職種との役割	リエゾン精神看護												
		61 対象者をとりまく保健・医療・福祉従事者間の協働の必要性について理解する	協働	看護に関わる人たちとの協働	コミュニケーション														
			インタープロフェッショナルワーク	IPW	チームアプローチ														
		62 対象者をとりまくチームメンバー間で報告・連絡・相談等を行う	チーム医療における報告・連絡・相談	報告・連絡・相談	報告技術	相談技術													
63 対象者に関するケアについての意思決定は、チームメンバーとともに行う	チームメンバーと共に行う意思決定	チームにおける意思決定のプロセス	チームカンファレンス	共同目標の設定	エンパワメント	リーダーシップ	フォロワーシップ												
64 チームメンバーとともに、ケアを評価し、再検討する	チームメンバーと共に行うケアの質評価	チームにおける評価のプロセス	ケアの質評価																
IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	Q 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割	65 看護を実践する場における組織の機能と役割について理解する	看護実践の場の組織の機能と役割	看護組織の機能と役割	産業保健における組織の機能と役割	医療施設の機能と役割	介護関連施設の機能と役割	地域保健における組織の機能と役割	学校保健における組織の機能と役割	訪問看護における組織の機能と役割									
		66 保健・医療・福祉システムと看護の役割を理解する	保健・医療・福祉システムと看護の役割	ケースマネジメント	保健医療福祉システムと制度	地域医療システムにおける看護の役割	医療機能評価	介護保険における看護の役割	障害者福祉における看護の役割	母子保健における看護の役割	老人保健における看護の役割	精神保健における看護の役割	継続看護における役割						

IV群 ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力	Q 保健・医療・福祉システムにおける看護の役割(続き)	67 国際的観点から医療・看護の役割を理解する	国際的観点からの医療・看護の役割	異文化看護	在日外国人の保健医療福祉	グローバルゼーション	災害医療と看護	地球規模でみた健康問題							
		68 保健・医療・福祉の動向と課題を理解する	保健・医療・福祉の動向と課題	保健医療福祉行政の概要	母子保健と小児医療の動向と課題	老人保健と老人医療の動向と課題	介護保険の動向と課題	精神保健の動向と課題	感染症対策の動向と課題	産業保健の動向と課題	学校保健の動向と課題	社会福祉の動向と課題	生活保護の動向と課題	医療保険の動向と課題	雇用保険の動向と課題
		69 様々な場における保健医療福祉連携について理解する	様々な場における保健医療福祉連携	地域ネットワーク	保健医療福祉連携・共同	保健医療福祉チーム									
V群 専門職者として研鑽し続ける基本的能力	R 継続的な学習	70 看護実践における自らの課題に取り組むことの重要性を理解する	看護実践者の責務	看護者の倫理綱領	看護業務基準	セルフマネジメント	キャリアマネジメント	看護職としてのアイデンティティの形成	リフレクション	専門職としての看護組織	看護実践者の責務に関するガイドライン				
		71 継続的に自分の能力の維持・向上に努める	生涯学習	キャリア開発	クリニカルラダー	ボランティア活動	認定看護師・専門看護師制度	リフレクション	看護教育体系	学習の資源と活用方法	継続教育・卒後教育	学習理論	卒後研修	生涯学習の方法と形態	自己研鑽
	S 看護の質の改善に向けた活動	72 看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性を理解する	看護専門職というキャリア	専門職能団体の責務(日本看護協会)	認定看護師	専門看護師	看護の専門性	看護専門職にとってのキャリア	キャリアマネジメント	キャリアビジョンの意義	ワークライフバランス	専門職の特性・基準	看護師の人材確保の促進に関する法律		
73 看護実践に研究成果を活用することの重要性を理解する		エビデンスに基づく看護実践	evidence-based nursing	研究成果の実践への活用方法	文献検索方法	文献活用方法	看護研究の読み方	研究の評価							

表V-2. 看護師に求められる実践能力の「卒業時の到達目標」の達成に「必要な知識の整理」から作成した教育内容

No.	1. 「看護にとって必要な知識」を共通性に従ってまとめる＝どのようなまとまりとして教育すれば良いか。 (以下の番号は、分析結果の「看護にとって必要な知識」が含まれる厚生労働省報告書*における卒業時の到達目標の番号)	2. まとまりに名前をつける。 ＝教育内容	3. 作成した教育内容に、含まれる・関連する「看護にとって必要な知識」があるかを確認して追加する。	4. 教育内容例として「看護にとって必要な知識」と「必要な知識の内容」をまとめて記述する。	5. どのような方法で学ぶのが望ましいか検討する。
1	1. 日常生活行動が可能となる人体の構造と機能	生活者としての人の理解	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	生きる、呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する、生産的な活動をする、身体の清潔を保つ、意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるという日常生活行動が可能となる人体の機能と構造を理解する。 日常生活行動が可能となる人体の機能や構造について、子どもや老人の場合の特徴を理解する。 人の成長発達全般および胎児期・新生児期・乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期、死までの身体、心理、社会的な成長・発達、および健康課題を理解する。また集団としての生活者、人を取り巻く文化を理解する。	講義と一部演習（時期を選んで、ひとりの人を身体、心理、社会、文化的側面から理解するレポートを作成するなど） 演習：解剖見学
	2. 成長・発達・死				
	3. 個としての生活者、集団としての生活者、対象者を取り巻く文化				
2	1. の関連（別科目としてより）日常生活行動の障害および日常生活行動の促進を学ぶ	日常生活行動の障害および促進と看護	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助	生きる、呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する、生産的な活動をする（妊娠、出産、育期の生活を含む）、身体の清潔を保つ、意志や感情を表現する／信念を守る／人と関わるという日常生活行動が障害される症状および障害予防方法、日常生活行動の内滑な促進のための看護援助を、発達段階による特徴も踏まえて理解する。	講義
	50. 看護職の役割と機能 50. 看護専門職 50. チーム医療における看護職の役割 51. 看護師としての自らの役割と機能	看護職の役割と機能	4. 実践する看護の根拠・目的・方法 4. 説明責任（アカウンタビリティ）と意思決 4. コミュニケーションの概念と技法 5. 自らの役割とその範囲 6. セルフアセスメント 6. 活用できる人的資源 6. 報告・連絡・相談 27. 予防活動における看護の役割	看護師（として）の役割と機能・看護専門職、チーム医療における看護職の役割、予防活動における看護の役割、実践する看護の根拠・目的・方法、自らの役割とその範囲、セルフアセスメント、活用できる人的資源、連絡・報告・相談、説明責任と意思決定、コミュニケーションの概念と技法（看護の基本となる定義と概念、看護職の業務と法的基盤、看護職の責任、ジェネラリスト、スペシャリスト、マネージャー、リーダーシップ、マネジメント、看護活動の場、損害賠償保険）	講義 演習：看護師の働く場でシャドーイングの演習をする。また、医療をチームで支えていることを学ぶために施設探索も行う。
4	12. 他者理解	援助関係の形成		他者理解、信頼関係の形成とその方法、ケアリング、対人技法と援助的コミュニケーション、必要な情報の選択と取扱い、その提供方法、対象者からの要請・質問に誠実な対応（人間の基本的特質、信頼関係の形成、ケアリング、コミュニケーション）。家族、地域のアセスメント、信頼関係等は含まれる	講義
	12. ケアリング				
	12. 信頼関係の形成とその方法				
	13. 対人技法				
	13. 援助的コミュニケーション				
	14. 必要な情報の選択とその提供方法				
14. 情報の取り扱い					
15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応					

*厚生労働省（2011）. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.

<p>5</p> <p>7. プライバシー・個人情報の保護</p> <p>8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条</p> <p>8. 他者の尊重</p> <p>9. 対象者の尊厳や人権の擁護</p> <p>10. 対象者の選択権・自己決定の尊重</p> <p>11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動</p> <p>14. 必要な情報の選択とその提供方法</p> <p>14. 情報の取り扱い</p> <p>15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応</p>	<p>倫理的な看護実践</p>		<p>臨床倫理、プライバシー・個人情報の保護、他者の尊重、対人関係の尊厳や人権の擁護、組織の倫理規定・行動規範に従った行動、対象情報のマネジメント（必要な情報の選択と取扱い、その提供方法）、対象者からの要請・質問に誠実な対応（臨床倫理とは、インフォームドコンセント、看護情報と守秘義務、対象者の尊厳や人権の擁護、自己決定を支える実践、組織の倫理規定に従った行動、情報のマネジメント）</p>	<p>講義 （実習に倫理カンファを入れる）</p>
<p>6</p> <p>4. コミュニケーションの概念と技法</p> <p>5. 自らの役割とその範囲</p> <p>6. セルフアセスメント</p>	<p>看護とリフレクション</p>	<p>7. プライバシー・個人情報の保護</p> <p>8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条</p> <p>8. 他者の尊重</p> <p>9. 対象者の尊厳や人権の擁護</p> <p>10. 対象者の選択権・自己決定の尊重</p> <p>11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動</p> <p>14. 必要な情報の選択とその提供方法</p> <p>14. 情報の取り扱い</p> <p>15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応</p> <p>50. 看護職の役割と機能</p> <p>50. 看護専門職</p> <p>50. チーム医療における看護職の役割</p> <p>51. 看護師としての自らの役割と機能</p>	<p>リフレクションの概念、リフレクティブサイクル、必須スキル、リフレクションの方法</p>	<p>講義（実習にリフレクションを入れる生涯学習、看護過程にもつながる）</p>
<p>7</p> <p>16. 健康の概念</p> <p>16. 情報収集の視点</p> <p>16. 目的を持った情報収集</p> <p>17. 情報の整理分析・解釈</p> <p>17. 分析・解釈の統合</p> <p>17. 看護上の問題（課題）の明確化、優先順位の決定、目標の設定</p> <p>18. 対象者、チームとの協働</p> <p>18. 計画立案</p> <p>19. エビデンスとその活用</p> <p>19. 個別的な看護</p> <p>23. 予測しない状況変化についての観察と判断</p> <p>23. 連絡・報告の必要性とその方法</p>	<p>看護実践の理解</p>		<p>健康の概念、看護理論、看護過程の概要（目的をもった情報収集、情報の整理・分析・解釈、分析・解釈の統合、看護問題の明確化、優先順位の決定、目標の設定、看護計画の立案、エビデンスと個別的な看護計画、看護記録と法的意義、看護記録の活用と具体的方法、評価とその方法、計画の修正）</p>	<p>講義</p>

7 続き	24. 看護記録と法的意義	看護実践の理解（続き）			
	24. 看護記録の活用と具体的方法				
	25. 看護における評価とその方法				
	26. 計画の修正				
8,9	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	病態および症状の理解と看護	50. 看護職の役割と機能	病態の理解：加齢性疾患、生活習慣病（がんを含む）、難病、先天性疾患などのなかから代表的な疾患をとり上げる。 症状の理解と看護：生活行動（呼吸する、食べる、排泄する、眠る、移動する）が障害された場合の症状をとり上げ、看護を学ぶ。	講義（全ての健康段階に関連する）
	27. 健康生活を支える予防活動		50. 看護専門職		
	27. 予防活動における看護の役割		50. チーム医療における看護職の役割		
	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助				
	32. 身体に急激な変化をもたらす原因				
	32. 身体に急激な変化がもたらされた場合に引き起こされる生体の反応				
	32. 身体に急激な変化がもたらされた対象者に対して必要な治療・看護				
	33. 治療に伴う二次障害を予防するための看護				
	34. 対象者にタイムリーな看護を提供するために必要な看護				
	35. 基本的な救急救命処置				
	36. 状態の変化に伴う症状の変化				
	36. 迅速な報告				
	37. 起こりやすい合併症				
	37. 合併症を予防をしながら生活するための支援方法				
	38. 日常生活の自律/自立に向けた支援方法				
	39. 急激な健康状態の変化にある対象者の心理				
	39. 対象者の心理的支援				
	40. 慢性疾患の特徴・疾患の種類と経過・症状				
	40. 各種の治療法についての知識				
	41. 各種治療法に関する作用と有害事象				
	41. 療養生活の特徴と治療が及ぼす影響				
	42. 障害の受容過程と心理的援助				
	43. 療養生活をおくる対象者の環境調整				
	44. ケースマネジメント				
	44. ソーシャルサポート				
	45. 急性憎悪の予防				
	46. 慢性的な健康障害を有する生活者				
	46. QOL向上の支援				

8.9 続き	47. 終末期	病態および症状の理解と看護 (続き)			
	47. 療養の場選択の自己決定				
	47. 死の受容過程				
	48. 緩和ケア				
	48. 死の徴候				
	49. 看取りをする家族				
	49. 看取りのチーム				
49. 遺族へのグリーフケア					
10	20. 対象者と関わり、反応を捉える方法	看護実践演習Ⅰ：健康な人間の基本的な状態を理解し、正常・異常をアセスメントする、健康の保持増進		基本的な看護援助技術（感染予防・呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）の習得	講義と演習 講義では看護技術とは何かを学び、各演習で学ぶ看護援助技術に必要な知識（感染予防、ボディメカニクスなどの共通する知識、方法、エビデンスなど）を理解する。 演習では学生同士で看護師役、患者役となり、以下の各看護技術を行う。 ・フィジカルアセスメントの基礎 ・感染予防技術 ・基本的な看護援助技術（呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）
	21. 安全・安楽・自立				
	22. 呼吸を助ける				
	22. 食べることを助ける				
	22. 排泄を助ける				
	22. 眠ることを助ける				
	22. 移動を助ける				
	22. 身体の清潔を保つ				
	22. 生産的な活動を助ける看護技術				
	22. 意思や感情を表現する／信念を守る／人と関わることを助ける看護技術				
58. 感染予防					
58. 感染予防技術					
11	12. 他者理解	看護の基盤を学ぶ実習		援助的関係の形成、基本的な看護援助技術（呼吸・食事・排泄・睡眠・移動・身体の清潔・体温調節を助ける）の実践	実習 基本的な看護援助技術を実践しながら援助関係を形成する。実施した内容はプロセスレコードに記述するなど、リフレクションする。また、臨床現場での実践を通してチーム医療の視点も養う。 日々のカンファレンスを重視し、自己の意見を述べる力、他者の意見をクリティカルに捉える力をつけ、視野を広げる。 看護過程は展開しない。
	12. ケアリング				
	12. 信頼関係の形成とその方法				
	13. 対人技法				
	13. 援助的コミュニケーション				
	14. 必要な情報の選択とその提供方法				
	14. 情報の取り扱い				
	15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応				
	20. 対象者と関わり、反応を捉える方法				
	21. 安全・安楽・自立				
	22. 呼吸を助ける				
	22. 食べることを助ける				
	22. 排泄を助ける				
	22. 眠ることを助ける				
	22. 移動を助ける				
	22. 身体の清潔を保つ				
	22. 生産的な活動を助ける看護技術				
22. 意思や感情を表現する／信念を守る／人と関わることを助ける看護技術					

12	55. 医療安全	安全なケア環境を保証する看護		<p>・医療安全 (医療事故等の定義・分類、医療事故の構造、患者の安全、医療提供者の安全、安全文化、ノンテクニカルスキル、ヒューマンファクター、システムファクター、エラーからの学習、チーム連携) ・安全な環境での療養生活の保証 (対象のリスク特性、安全な環境を保証する方法、療養環境の整備と行動制限) ・リスクマネジメント (情報管理、安全管理責任者・リスクマネジャーの役割、リスクを回避する組織的なマネジメント、事故発生時の報告、災害時の対応、医療の質評価) ・安全な環境を保証するための関係法規及び各種ガイドライン (安全なケア環境に関するガイドライン、安全なケア環境に関する保健所等の監視機関)</p>	講義
	55. 安全な環境での療養生活の保証				
	56. 安全を脅かすリスク				
	56. リスクマネジメント・セーフティマネージメント				
	59. 安全な環境を保証するための関係法規及び各種ガイドライン				
13	66. 保健・医療・福祉システムと看護の役割	保健・医療・福祉システムの理解		保健・医療・福祉システムにおける看護の役割を理解するために、保健・医療・福祉の動向と課題およびそれらのシステムを理解する。	講義
	69. 様々な場における保健医療福祉連携				
14	さまざまな項目の知識の内容に含まれたため	看護に役立つ理論		なぜ理論が必要か、セルフケア、ストレスコーピング、危機モデル、不安、ICF、パーソンセンタードケア、リハビリ、ストレングスモデル、健康行動理論など	講義
15	4. 実践する看護の根拠・目的・方法	保健・医療・福祉チームの理解		<p>チーム医療における看護職の役割、看護チーム、他職種、IPW (連携・協働) 産業保健、医療施設、介護関連施設、地域保健、学校保健、訪問看護における組織の機能とそこでの看護の役割、他職種との連携・協力を理解する。</p>	<p>講義 演習：委譲や連携していく時に、どのように相手に接近し、伝えるかを演習で学ぶ。学内の他職種の教員を交えたグループワーク、ロールプレイ、事例検討などを行う。</p>
	4. 説明責任 (アカウンタビリティ) と意思決定				
	4. コミュニケーションの概念と技法				
	5. 自らの役割とその範囲				
	6. セルフアセスメント				
	6. 活用できる人的資源				
	6. 報告・連絡・相談				
	7. プライバシー・個人情報の保護				
	8. 対象者の価値観、生活習慣、慣習、信条				
	8. 他者の尊重				
	9. 対象者の尊厳や入権の擁護				
	10. 対象者の選択権・自己決定の尊重				
	11. 組織の倫理規定や行動規範に従った行動				
	12. 他者理解				
12. ケアリング					
12. 信頼関係の形成とその方法					
13. 対人技法					
13. 援助的コミュニケーション					
14. 必要な情報の選択とその提供方法					

15 続き	14. 情報の取り扱い	保健・医療・福祉チームの理解（続き）			
	15. 対象者からの質問・要請に対する誠実な対応				
	50. 看護職の役割と機能				
	50. 看護専門職				
	50. チーム医療における看護職の役割				
	51. 看護師としての自らの役割と機能				
	52. 看護師業務の法的範囲				
	52. チーム内における業務の委任				
	53. 委任する場合の他者への支援				
	54. 委任する場合の説明責任（説明責任（アカウンタビリティ））				
	60. 保健・医療・福祉の概念				
	60. 活動が展開される場の構成員				
	60. チーム医療における看護の機能と役割				
	61. 協働				
	61. インタープロフェッショナルワーク				
66. 保健・医療・福祉システムと看護の役割					
69. 様々な場における保健医療福祉連携					
16	16. 健康の概念	看護実践演習Ⅱ：健康状態に応じて対象を理解し看護実践する、健康な状態の回復に向けた看護		<p>アセスメントに必要な客観的・主観的な情報収集、情報の整理・分析・統合・課題の抽出、チームメンバーの協力の下で実施可能な計画の立案、根拠に基づいた看護計画の立案、看護計画に基づいた看護援助技術の実施、報告、記録、評価、計画の修正</p>	<p>講義と演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な看護技術に加えて健康状態に変化のある対象への看護について学ぶ（人工呼吸器装着中の患者への看護、疾患に応じた食事内容の指導、失禁している患者の皮膚粘膜の保護やストーマ造設中の患者の看護）。 ・看護過程の一連のプロセスの中で看護援助技術を複合的に習得する。 ・学生同士で看護師役、患者役となり、各看護技術を行う。教員（臨床教員でも可）がその日のリーダー役になり、報告を受ける。 ・チームということを意識し、1人で援助するのではなく、2名以上のグループで実践する。 ・2～3週間に1回は学生カンファレンスを実施し、自己の実践を共有し、計画をよりよいものに評価していく ・シミュレーションモデルを使用して、患者の状況をアセスメントし、計画を立案する ・臨床の看護師や認定看護師などからの講義や演習を組み込む ・SPの導入など
	16. 情報収集の視点				
	16. 目的を持った情報収集				
	17. 情報の整理分析・解釈				
	17. 分析・解釈の統合				
	17. 看護上の問題（課題）の明確化、優先順位の決定、目標の設定				
	18. 対象者、チームとの協働				
	18. 計画立案				
	19. エビデンスとその活用				
	19. 個別的な看護				
	20. 対象者と関わり、反応を捉える方法				
	21. 安全・安楽・自立				
	22. 呼吸を助ける				
	22. 食べることを助ける				
	22. 排泄を助ける				
22. 眠ることを助ける					
22. 移動を助ける					

16 続き	22. 身体の清潔を保つ	看護実践演習Ⅱ：健康状態に応じて対象を理解し看護実践する、健康な状態の回復に向けた看護（続き）			
	22. 生産的な活動を助ける看護技術				
	22. 意思や感情を表現する／信念を守る／人と関わることを助ける看護技術				
	23. 予測しない状況変化についての観察と判断				
	23. 連絡・報告の必要性とその方法				
	24. 看護記録と法的意義				
	24. 看護記録の活用と具体的方法				
25. 看護における評価とその方法					
26. 計画の修正					
17	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策	生活の場（生活環境）の特徴と健康への影響			<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化による健康生活への影響（生活環境とは、住環境、家庭環境、地域社会環境、生物環境、社会文化的環境、ストレスとコーピング、ストレスマネジメント、防衛機能の低下、免疫反応、有害物質、労働災害、安全管理、療養環境が及ぼす影響） ・安全な生活環境を脅かすリスク（職場風土、ヒューマンエラー、看護業務上のリスク、災害、医源病（医療行為が原因で生じる疾患））
	56. 安全を脅かすリスク				
	56. リスクマネジメント・セーフティマネジメント				
18	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	健康支援・予防のための看護			<ul style="list-style-type: none"> ・健康支援のために必要な基礎知識（健康の定義、健康観、ヘルスプロモーション、QOL、健康に関する指標、人口動態、健康状態と受療状況、生活行動・習慣） ・健康増進と健康教育のために必要な資源（公衆衛生システム、根拠が証明された健康支援プログラム、健康づくりの有用な根拠ある情報、健康づくりを支える各種機関、人的資源、チームアプローチ、セルフヘルプグループ、地域組織、健康診査等の各種保健施策） ・健康生活を支える予防活動（予防の概念、健康の保持増進、疾病予防、社会との関係性の中での健康づくり、セルフケア、介護予防） ・対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導（保健指導とは、家族アセスメントモデル、カウセリングマインド、動機づけ、コーチング、説明力、コミュニケーション技術）
	27. 健康生活を支える予防活動				
	27. 予防活動における看護の役割				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
19	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	治療方法の理解と看護	50. 看護職の役割と機能 50. 看護専門職 50. チーム医療における看護職の役割		<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法（薬剤の安全管理と使用を含む）、ホルモン治療（ステロイドホルモンを含む）、化学療法、放射線療法、物理療法、点眼治療、外用療法などと看護。 治療に必要な各種検査を含む。
	27. 健康生活を支える予防活動				
	27. 予防活動における看護の役割				
	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助				
	32. 身体に急激な変化をもたらす原因				
32. 身体に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応					
17	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策	生活の場（生活環境）の特徴と健康への影響			<ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化による健康生活への影響（生活環境とは、住環境、家庭環境、地域社会環境、生物環境、社会文化的環境、ストレスとコーピング、ストレスマネジメント、防衛機能の低下、免疫反応、有害物質、労働災害、安全管理、療養環境が及ぼす影響） ・安全な生活環境を脅かすリスク（職場風土、ヒューマンエラー、看護業務上のリスク、災害、医源病（医療行為が原因で生じる疾患））
	56. 安全を脅かすリスク				
	56. リスクマネジメント・セーフティマネジメント				
18	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	健康支援・予防のための看護			<ul style="list-style-type: none"> ・健康支援のために必要な基礎知識（健康の定義、健康観、ヘルスプロモーション、QOL、健康に関する指標、人口動態、健康状態と受療状況、生活行動・習慣） ・健康増進と健康教育のために必要な資源（公衆衛生システム、根拠が証明された健康支援プログラム、健康づくりの有用な根拠ある情報、健康づくりを支える各種機関、人的資源、チームアプローチ、セルフヘルプグループ、地域組織、健康診査等の各種保健施策） ・健康生活を支える予防活動（予防の概念、健康の保持増進、疾病予防、社会との関係性の中での健康づくり、セルフケア、介護予防） ・対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導（保健指導とは、家族アセスメントモデル、カウセリングマインド、動機づけ、コーチング、説明力、コミュニケーション技術）
	27. 健康生活を支える予防活動				
	27. 予防活動における看護の役割				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
19	27. 生活者の生涯各期における特徴と健康課題	治療方法の理解と看護	50. 看護職の役割と機能 50. 看護専門職 50. チーム医療における看護職の役割		<ul style="list-style-type: none"> 薬物療法（薬剤の安全管理と使用を含む）、ホルモン治療（ステロイドホルモンを含む）、化学療法、放射線療法、物理療法、点眼治療、外用療法などと看護。 治療に必要な各種検査を含む。
	27. 健康生活を支える予防活動				
	27. 予防活動における看護の役割				
	28. 環境の変化による健康生活への影響と予防策				
	29. 健康増進と健康教育のために必要な資源				
	30. 対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導				
	31. 妊娠生活、出産、育児生活を支えるための援助				
	32. 身体に急激な変化をもたらす原因				
32. 身体に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応					

講義（一部演習含む）
左記に挙げられた知識を学ぶとともに、看護の対象となる生活者が生活している様々な生活環境について実際に見学し、その生活環境の特徴と健康への影響についてグループワークなどを通して考察する。

講義（一部演習含む）
左記に挙げられた知識を学ぶとともに、対象者及び家族の個々の生活に合わせた保健指導について事例展開を通して学ぶ。

講義（全ての健康段階に関連する）

19 続 き	32. 身体に急激な変化がもたらされた対象者に対して必要な治療・看護	治療方法の理解と看護（続き）		
	33. 治療に伴う二次障害を予防するための看護			
	34. 対象者にタイムリーな看護を提供するために必要な看護			
	35. 基本的な救急救命処置			
	36. 状態の変化に伴う症状の変化			
	36. 迅速な報告			
	37. 起こりやすい合併症			
	37. 合併症を予防をしながら生活するための支援方法			
	38. 日常生活の自律/自立に向けた支援方法			
	39. 急激な健康状態の変化にある対象者の心理			
	39. 対象者の心理的支援			
	40. 慢性疾患の特徴・疾患の種類と経過・症状			
	40. 各種の治療法についての知識			
	41. 各種治療法に関する作用と有害事象			
	41. 療養生活の特徴と治療が及ぼす影響			
	42. 障害の受容過程と心理的援助			
	43. 療養生活をおくる対象者の環境調整			
	44. ケースマネジメント			
	44. ソーシャルサポート			
	45. 急性憎悪の予防			
	46. 慢性的な健康障害を有する生活者			
	46. QOL向上の支援			
	47. 終末期			
	47. 療養の場選択の自己決定			
	47. 死の受容過程			
	48. 緩和ケア			
	48. 死の徴候			
	49. 看取りをする家族			
	49. 看取りのチーム			
	49. 遺族へのグリーフケア			
	57. 薬剤の安全な管理と使用			

20	32. 身体に急激な変化をもたらす原因	心身に急激な変化をもたらされた人の看護		心身の急激な変化状態にある人の特徴の理解。心身に急激な変化をもたらす原因（手術、麻酔、事故、中毒出血等）、心身に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応（DIC、多臓器不全、生体の防御反応等）及び、心理面への影響（悲嘆のプロセス、喪失体験、ボディ・イメージの変化等）、心身に急激な変化をもたらされた対象者に対して必要な治療・看護（フィジカルアセスメント、意識レベルの観察、疼痛コントロール、トリアージ等）	講義 演習： フィジカルアセスメント、意識レベルの観察、AEDと心肺蘇生、トリアージ、輸液管理、酸素療法、救急救命処置、救急看護、医療器具の取り扱い、疼痛コントロール、報告テクニック
	32. 身体に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応				
	32. 身体に急激な変化をもたらされた対象者に対して必要な治療・看護				
	33. 治療に伴う二次障害を予防するための看護				
	34. 対象者にタイムリーな看護を提供するために必要な看護				
	35. 基本的な救急救命処置				
	36. 状態の変化に伴う症状の変化				
	36. 迅速な報告				
	37. 起こりやすい合併症				
	37. 合併症を予防しながら生活するための支援方法				
39. 対象者の心理的支援					
21	32. 身体に急激な変化をもたらす原因	心身に急激な変化をもたらされた人の看護を学ぶ実習			実習：急性期病棟（術前後の管理を行う病棟）、手術室、ICU、CCU、HCUにおいて、受け持ち患者に対する援助および見学実習。また、合併症予防と自立に向けた支援を行うための実習を、回復期の病棟で実施する。ともに、看護過程の展開を行う。チーム医療の要素を入れる。
	32. 身体に急激な変化をもたらされた場合に引き起こされる生体の反応				
	32. 身体に急激な変化をもたらされた対象者に対して必要な治療・看護				
	33. 治療に伴う二次障害を予防するための看護				
	34. 対象者にタイムリーな看護を提供するために必要な看護				
	35. 基本的な救急救命処置				
	36. 状態の変化に伴う症状の変化				
	36. 迅速な報告				
	37. 起こりやすい合併症				
	37. 合併症を予防しながら生活するための支援方法				
	39. 急激な健康状態の変化にある対象者の心理				
	39. 対象者の心理的支援				
	60. 保健・医療・福祉の概念				
	60. 活動が展開される場の構成員				
60. チーム医療における看護の機能と役割					
61. 協働					
61. インタープロフェッショナルワーク					